第 68 回日本手外科学会学術集会特別企画

漫画「テノゲカ」連載から 2 年
－原作者：詩石灯先生、漫画家：新井隆広先生と語らう会－

写真 1 ：会場前の特設書籍販売場
（サイン本として使われることの多い 1 巻が既に売り切れている点に注目！）

4 月 11 日午後 2 時 30 分にそのイベントは幕を開けました。まずは漫画テノゲカの医療監修を担当した市原理司が 2 年にわたる監修作業の中で注力したテノゲカの認知度向上に向けての熱い思いを 40 分以上参加者へお伝えしました（写真 2 ）。

写真２：漫画テノゲカの医療監修を担当した市原理司の講演

続いて企画された詩石灯先生、新井隆広先生との座談会でお二人の先生が登壇すると最初の５分はお二人の姿をカメラに収めようとするシャッター音が鳴り止みませんでした。座談会にはテノゲカ創刊から応援し愛し続けてくれた、池田和夫先生、古川洋志先生、頭川峰志先生、小島伊知子先生の４名をお迎えして様々な質疑応答を予定していました。しかし、４名の先生が漫画テノゲカへの熱い思いと感謝の言葉を詩石灯火先生、新井隆広先生へ心を込めてお伝えする時間が 30 分以上続き、質疑応答は 20 分を残すのみとなりました（写真 3，4）。

写真３（上）：大江隆史先生の座談会開始の挨拶、
写真４（下）：コアな読者の鋭い質問に新井隆広先生が明快にお答え頂いている様子

会場には一般の方にも参加頂いており、テノゲカ医とは違った目線での質問も頂くことができとても新鮮でした。お二人の先生からも**「作品を作っていく中で手外科の専門知識を織り交ぜていく面白さや難しさ」、「明智と一心を宿命のライバルという関係性で描いたりされたのか」、「しずく姉の現在、過去での描き方の違いがなぜ生まれたか」**などといった隅々までテノゲカを読み込んだ読者からしか出てこないコアな質問に対して丁寧にお答えいただきました。

幸せで楽しい時間はあっという間に過ぎて、残り 30 分は予め単行本を会場の書籍展示で購入頂いた参加者限定でサイン会を開催しました。何名並んで頂けるか不安を感じていた主催者側の心配は杞憂に終わり 40 名以上の大行列となりました。新井先生もその気持に答えて頂き、ひとりひとりに丁寧に素敵なイラストを添えてサインして頂き記念撮影にも応じて頂きました。気がつけばサイン会は 2 時間を超過し、会場担当の方には多大なご迷惑をおかけしましたが「想定の範囲内です！」と優しく微笑んで頂き本当に救われました（写真５， ６）。

写真５（上）：サイン会での 40 人以上の行列
写真６（下）：詩石灯先生がサインされている様子

今回の企画を提案頂き、事前準備の段階から本番の司会進行までサポート頂きました大江隆史先生、単行本の手配から、会場の配置、ポスターの作成まできめ細やかなサポートを頂きました小島伊知子先生、そしてこの企画を第 68 回日本手外科学会学術集会の特別イベントとして開催させて頂きました三上容司会長に深謝いたします（写真 7，8）。

写真７：座談会参加者と詩石灯火先生、新井隆広先生との記念撮影

写真７：座談会参加者と詩石灯火先生、新井隆広先生との記念撮影
（前列左から新井隆広先生、詩石灯先生、後列左から大江隆史先生、市原理司、池田和夫先生、古川洋志先生、頭川峰志先生、小島伊知子先生）

写真８：今回の特別企画を担当した３人（左から大江隆史先生、市原、小島伊知子先生）

（文責：市原理司）